



## 接触による治療

飯田 淳子 (いいたじゅんこ)

川崎医療福祉大学准教授

### 異文化「接触」

「異文化接触」というときの「接触」とは比喩的なことばであり、対象をへたへた触っているという意味でないことはいうまでもない。しかし、タイ・マッサージを研究テーマにしているわたしは、文字通り、フィールドで人びとと「触れ合っている。人類的なフィールドワークでは、対象社会に入り込み、そこで人びとがしていることを実際に体験しながら調査をする「参与観察」という方法がおもにとられる。「観察」という目で見ることと思われがちだが、人類学者たちは実際に

は視覚だけでなく、五感をフルに働かせて対象社会を理解しようとする(感覚を五つに分けるという分類法自体、普遍的なものではないが)。わたしの場合、タイ北部チェンマイの伝統的診療所でタイ・マッサージを習い、マッサージ師の一人として働きながら調査をしていた。

### 治療法としてのタイ・マッサージ

タイ・マッサージというと、観光客向けのサービスか、リラクゼーションのためのものというイメージが強い。なかに

はタイ・マッサージという看板を掲げて性的なサービスを提供している店もある。しかし、タイ・マッサージは治療法として用いられることもあり、最近では化学薬品よりも「自然」な療法だとして、タイ人都市中間層のあいだで再評価されている。また、タイ政府は中国医学やアーユルヴェエダ等に並ぶものとして「タイ式医療」なるものを制度化しており、タイ・マッサージを療法のひとつとして普及している。

わたしは一〇日間のタイ・マッサージ習得コースを修了した後、先輩のマッサージ師を相手に練習するなかで、センの位置が人により微妙に異なることに気づいた。本来の意味でセンの位置を把握するには、実際にいろいろな人の体に触れ、また、自らマッサージを受け、センを押さえ(られ)たときの感覚を感ぜてみる必要がある。

### 癒しの感覚

センの位置はタイ・マッサージのテキストなどに図示されているものの、それを見ただけでは正確に知ることができない。

近代医療においても触診などがおこなわれるものの、触覚は主観的な感覚とされ、視覚的情報が重視されることが多い。実際、西洋近代科学では「目で見ること」客観的」とされ、顕微鏡やX線撮影、身体解剖などによってさまざまなかことが「明らかに」されてきた。しかし、医師たちはX線写真やモニターの画像以上に、患者ときちんと向き合っているだ

ろうか。

視覚が対象とのあいだに一定の距離を必要とするのに対し、触覚はその距離をなくす。タイ・マッサージによる治療は決して一方的な「施術」ではなく、マッサージ師とクライアントのあいだには接触と言語を通じた密なコミュニケーションが生まれる。同じような症状であっても

同じ療法で治るとは限らないため、マッサージ師は個々のクライアントの体に触れ、クライアントの身体的・言語的反応に基づいて問題のあるセンを特定し、治療の効果を判断する。ペテランのマッサージ師でさえ一度の施術で治療できるとは限らず、何度か試行錯誤するなかで症状を和らげていく。そうするうちにマッ

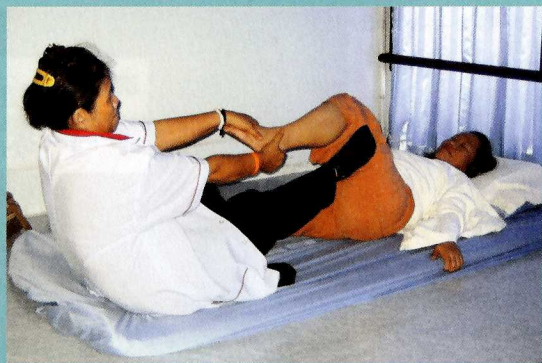
マッサージ師は、それぞれのクライアントの体の特徴や性格、好みなどを熟知するようになる。常連のクライアントがいつも同じマッサージ師を指名するのは、こうしたやりとりを通じた安心感・信頼感があるためである。

ツトを通じて提供されるようになってきている。その一方で、身体接触を通じた療法を求める人が各地で増えているという。生身の人間同士の「ふれあい」が不可欠であることは医療の領域に限った話ではない。だからこそ、人類学者はフィールドに行くのである。

バンコクの寺院壁画 センの視覚化の試み



ストレッチのような技法も多く用いられる



「同僚」たちと(右端が筆者)

